特集 純野釣り浪漫

10 石井旭舟【へらぶな浪漫街道】スペシャル **みちのく純野釣り紀行** 岩手・田瀬湖〜山形・三本木沼〜宮城・釜房湖

23 本誌独占スクープ！ **ダム王(キング) 松村則朗 亀山湖で50.2cmを釣る!!**

30 稲毛利夫が純野べらを釣らせます！ **純野釣り派少年が城沼&多々良沼で夢の釣行!!**

36 伊藤さとし 芦ノ湖の大型べらを「将鱗® へらプレミアム」で豪快に釣り込む!!

40 小池忠教 **K'S FORM & STYLE**
《Vol.4》両ダンゴの基本 in 羽生吉沼

46 中澤 岳 **フィールド真っ向勝負**
《Vol.7》底釣り両ダンゴ in 加須吉沼

52 杉山達也の**SUPER SPLASH!**
《ROUND.7》炸裂杉山ワールド。メーター両ダンゴ&ヒゲセット!! 府中HC

★AREA REPORT
58,66 柴山沼（埼玉県） 本誌・伊藤洋一
60,68 赤祖父湖（富山県） 山本一朗
61,69 加福フィッシュランド（愛知県） 後藤 誠
62,70 つり堀 トムソーヤ（滋賀県） 前田誠志
63,71 佐賀工業団地の池（佐賀県） 河口正伸

134 **竹とともに生きる。**
《第33回》「夢坊」南 修司

137 棚網 久の**我流**
《第五回》前アタリを見つけよう!! 清遊湖

143 **田辺哲男&小林恭之の問答無用へらツアー**
《Vol.7》クラブスリーワン、鬼活性の谷和原大沼!

148 戸張 誠 **関べら戦記**
《第五回》5月例会 富士四湖 年間上位者集結の根場!

154 吉川ひとみの**あっち こっち そっち♡**
《Vol.6》ひとピー、虹の架け橋を渡る!?
ショップ:サンビーム高崎店 釣り場:三名湖

158 ㊗ 宗春会 創立二十周年記念釣り会 一碧湖

159 第2回 富里乃堰釣り大会

160 **私の宝物**
《Treasure.11》ゲスト:土屋博司さん

193 DUELフィールドスタッフ懇親会 in 椎の木湖

194 岡田 清 **Deep Side Angle**
《Vol.33》【メータートロロワールド】 椎の木湖（埼玉県）

200 北川穂積 **西の交友録**
《第7回》ゲスト:石坂幸弘 釣り場:生野銀山湖（兵庫県）

204 **釣りの帰りに寄りたいお店**
《file.18》茨城県板東市【和牛炭火焼肉 泉光苑】の味くらべ

206 **釣果予想クイズ**

208 **フィッシングレディ**
《今月のレディ》名古屋千枝さん 武蔵の池

p.165〜

釣り場割引クーポン券

野田幸手園 椎の木湖
清遊湖 谷和原大沼 上尾園
F.A吉羽園 谷養魚場 将監
柳生FP 筑波白水湖 泉堰
逆井HC 友部湯崎湖
水藻FC 甲南へらの池
三和新池 狭山HC 新座LC
川越FC 府中HC 当麻池
多賀釣池 芦田湖水光園
鳥羽井沼 朝日池 大上へら池
霧の沼 小川つり堀園
清川つくしF.C
千代田湖・舟宿 千和
精進湖・釣宿 金風荘
西湖・釣舟 白根
西湖・釣り宿 丸美
西湖・釣り宿 青木ヶ原

▶今月の表紙
back：三本木沼のへら鮒
angler：石井旭舟 松村則朗 稲毛利夫&小林祐輝君
photo&layout：本誌・里&諸

へら鮒

7月号

July.2006 No.487

75 **へら鮒釣り 超基本講座【道具造り編】**
《第19回》羽根ウキの作り方 2枚合わせ編④

81 **ガチンコ道場**
《第7回》遂に来たっ!! VARIVAS GRAN CUP 東北&関東予選

88 都祭義晃 **カリスマ伝説**
《Vol.7》バリバス・グランカップへらトーナメント東北予選。。。
そして、加須吉沼でレディーファーストの罰ゲーム（レディーって誰?）

92 石川裕治が伝授する**王者の法則**
《第7回》深宙両ダンゴ in 三島湖

99 江成公隆の**トーナメンター、復活への道。**
《Vol.49》惜敗?

106 **すすめっっっ へら鮒調査隊!** 天野正由
《調査ファイル07》50cmを見せてちょ〜だい2 秩父湖&四尾連湖&丹沢湖&河口湖

110 **水辺のプラネタリウム** 吉本亜土
《今月の星空》「日曜&平日」

114 **最狂へラ戦士養成所 "鮒の穴"** 漢(オトコ)タカハシ
《第四十一話》大人の「こどもの日」、フロート様が童心に返る。

※稲毛利夫の「野釣り場地獄巡り」は、誌面の都合上お休みさせて頂きます。

119 **へら鮒ブログ** 西田美明
《第7回》「嵩高い傘が嫌い!」

122 **母なる湖… 琵琶湖べらを釣れ!** 南 元彦
《第14回》八幡堀は水郷巡りの舟で今日も大賑わい!!

126 **野田幸手園新聞**

162 **ワクワク管理釣り場情報**

164 東レ将鱗へらぶなカップ 関西大会

171 **小売店情報**

★へら鮒BOX
177 里ちゃんの新米編集長雑記
178 情報発信基地
181 がまかつチーム対抗戦 西日本大会
182 ボイス
187 コラム『日研だより』 日研広報部長・遠藤克己
188 コラム『日々是、勉強!』 ホワイト
189 コラム『紀州"想いの竹"のものがたり』 中峯伸行
190 プレゼント発表
191 広告索引
192 編集後記

STAFF

●Producer
根本百合子

●Editor in chief
田中里史

●Editor
大場勝良
諸冨一秋
伊藤小百合
伊藤洋一

●Planner
〈オフィス・えふ〉
藤原 肇

この物語は、
栄光、そして挫折を味わい、
今、再び這い上がろうとする一人の男の人間ドラマである。

江成公隆のトーナメンター、復活への道。

〈Vol.49〉

惜敗？

「一歩進んで二歩下がる!?」

text and photo by Kimitaka Enari and Satoshi Tanaka
業界初、Web連動企画！…いよいよ再発進！　《URL》http://hesar.yokohamatsurumi.net

二十日の晩、夕食をとっていると、江成から電話が。翌日のG杯南関東予選に備え、幸手の近況でも聞きにきたな？と思ったが…
「里ちんさ、明日集合何時だっけ？」ときた。
「アニキ～、今さら何を言ってるんですかぁ…。僕は明日出ないんで、詳細は分からないんですよ」　「そっか～。でも5時前に行ってりゃ間違いないよな？」　「そりゃ楽勝でしょうけど、早すぎません？」　「いや、仕掛け作らなくちゃならないんでちょうどいいよ」　「またですか？…ってことは、まだ仕事中すか？」　「イエース。まだ帰れないね。それに、家に帰っても寝たらアウトだと思うんだよ。だから早めに行って、仕掛けと鈎結んで、時間が余ったら寝るとするよ」
…江成の現実である。超多忙な毎日の中で、釣りにかけるウェイトは極めて低い。それでも捨てることが出来ない魅力、それがへら鮒釣りにはあるのだろう。　…ちょっと待った！　ならば原稿は当然、終わって「ない」のか？
「なに言ってんの～？　G杯が終わってからはじめて原稿にかかれるってもんでしょうが。バリバスだけじゃ書けないよォ！　ギャハハ～」
この男ヤバい。ヤバすぎる。夕飯の米粒が鼻から飛び出た…。
どんなに取材日を早めに設定しようとも、入稿が早まるわけではない江成。先月も今月も、全くの無意味だったことになる。もはやヤツに特別の配慮は不要！　G杯の後、実質4日間しかなかった執筆時間で、こんな「こってり」を仕上げてきたのだ。つまり遅筆というわけではなく、手を付けていないだけなのだ。ニャロメ！　そして今日は5月26日。朝一番で届いた原稿を、超特急でレイアウト。さらに前フリを付け足し、この1時間後には印刷所へ入稿となる。そりゃアニキ、ミスも出まっせ～!?　*by* 里ちん

貫徹。

先月号前フリで、里ちんは「今月もほとんど里が書いてます」と書いたが、あれでは100パーセント里ちんだ。実は僕の原稿部分を掲載し忘れていたのだ！　それが以下の文章。

・・・・・・・・・・・・・・・・・

〈江成の反省〉

タナで反応させる、普通の「ナジませ釣り」は、この日（里ちん註：大竹氏、岡田氏をゲストに招いた4月2日の取材）の幸手園でも効いた。大竹君の言っていたように、過去の自分の釣りを貫いても釣れないことはないのはよく分かった。上からの釣りでしか釣れないケースを除けば、何がなんでも落ち込み地合で釣る必要はないのだ。しかし、バラケをシメていく方向はやはり薄い。魚影抜群の幸手園であっても、並んだら寄せながら釣っていく必要があることを、今回の取材では痛感させられたのだ。

もちろん、寄せを意識しなくてもへらはたくさん居る。しかしそれは、相手にしてはいけないへらなのだ。反応は鈍いし、型も悪い。可能な限り大きめのボソを打って、「活性の高いへらをキープ」する必要がある。これが、「寄せる」の意味だ。締まったバラケを打つ僕と、ボソエサを打つ隣の岡田君とのアタリ数の差は、歴然だった。へらの型が均一で、なおかつもっと小さい時代は「居るへらをどう料理するか」が、僕達のテーマだった。現在は、それで決まったとしても、型で大差が付いてしまうだろう。

ボソエサの拡散範囲にあわせて段差を調整する必要はほとんどないと言っていい。真冬でも距離感は崩壊したと感じているのに、暖季ならなおさらである。考慮するとしたら、「追い」しかないだろう。ボソエサに合わせるという意味で考えなければならないのは、段差よりもウキのサイズだ。タナまでしっかりと大エサを引っ張り降ろすための適正なオモリ量を考えると、超小ウキは無意味だ。さらに、ヨタから活性の高いモンスターまでをとにかく寄せることを考えれば、小ウキではウキが立たなかったり、必要以上にもまれて釣りづらくなってしまうだけだろう。

以上の事は、実は先月号（里ちん註：5月号のこと）の特集である岡田君と萩ちゃんとの対談に書いてあった。読めよオレ…。（言い訳をさせてもらえれば、珍しく早かった取材日だったため、届いたばかりの5月号をまだじっくり読んでいなかったのだ）

ここで冷静に考えてみれば、これは「新しい傾向」でもあるが、セッティングだけ見れば「昔の釣り」とも言える。釣りの流行は、やはり繰り返しているのだ。

・・・・・・・・・・・・・・・・・

…以上のことをふまえ、僕はバリバス・グランカップ（以下バリバス）予選に向かった。いざ試合開始。前評判では結構釣れているということだったが、トーナメント独特のフィッシングプレッシャーに完全に支配された幸手園。一回戦ではオデコも出るほどの激渋であった。予選は並び5人で一人が二回戦へ進めるルールだったが、僕の左隣が6枚で二回戦進出（実はこの方こそ、先日行われた全国大会を制してニューチャンピオンとなった太田武敏氏！　詳細は本誌次号で！）。僕は4枚で散った。ちなみに二人を挟んで両隣りは、どちらもオデコであった。管理釣り場でオデコはレアである。どれくらい渋かったかがお分かりいただけるだろう。

時間当たりにして1枚か2枚の釣り。果たして正解と呼べる釣りが、地合と呼べる状態

が、存在したと言えるのだろうか？　…間違いなく地合はない。しかし、トーナメント。魚に負けても人に勝てばよい。どんなに貧果であっても、結果が出る釣りは正解と言えるのだ。

バリバスではへらにも隣にも確かに負けた。しかしセッティングやリズムに迷わず、当初の釣りを貫き通せたことは自分なりに大きな進歩だった。今回、自分が選択した釣りが不正解であったとしても、押し通したことが間違いだったとしても、それはそれでいい。「負けはしたが、自分に克った」のだ。…ちょっと誉め過ぎか。

結果論。

誉めはしたが、トーナメント中の僕は、もちろん葛藤の連続。左隣の彼とは、同じバラウドンながら組み立てが正反対であったのも、おおいに僕を悩ませた。構図としてはこうだ。隣の「完全に上で抜き、クワセだけで待ち抜くセット」vs.僕の「大バラケを入れ、テンポよく打ち返すセット」。お互い4枚目を釣るまでは接戦だったが、最後の1時間で勝負は決まった。ではいったい何が違ったのか？

試合中、どう見ても水中を粒子で汚していたのは僕の方だった。粒子酔いを引き起こしていたと捉えることは可能だが、実は2枚差でグラム差だったほどに僕の方が明らかに型が良かったし、こんな激渋の状況下でも、釣れたのは全て、ナジミ込みの最中もしくは直後の早めのアタリであった。たった4枚対6枚の釣りで断定するのもどうかと思うが、活性の高いへらを呼び込むことには成功していたと言えなくもない。ただその活性の高いへらが、あまりにも少なかったと言えるのではないだろうか。となると、前回の釣行で「相手にすべきでない」とした居着きのヨタも、相手にしていかなければならなかったことになる。そうはいっても隣も泣いていた。ズルいへらも一段と渋っているのだ。「サワリがあれば、落とすまで待つ」とはいえ、いつまでもじくじくとなかなか落とさない動きに、たまらず切りたくなるのをグッと堪えていたように見えた。そしてやっとアタっても、弱い「押し」や「ぶつかり」が多く、スレ・カラツンにのけぞっていた。

「待つのか切るのか」。管理と野で話は違ってくるかもしれないが、へら釣りのリズムを語る上では永遠のテーマである。「待っていなくなる」のか、「打ってボケる」のか、という話に直結する。しかし今回、僕は思った。自分を信じてのギリギリの精神戦の中では、これは結果論でしかないのだ、と。

終了1時間前。我慢の限界を感じ、僕はトイレに立った。僕のエサに寄っているヨタもいる。均衡が破れる。隣はこのチャンスを見事にモノにした。流石である。寄りが増えたからといって、簡単に食いに繋げられるものではない。「隣がいなくなったら湧いちゃって、ウキが立たなくなっちゃったよ～！」という状況と違い、どんなに薄く渋い状況であったとしても、その状況なりのエサやセッティングというものがあるわけだから、増えた密度に合わせる工夫が必要な筈なのだ。

そう言えば、トイレに立つ時の僕はそれなりの覚悟はしていたのだが、「まだ1時間ある」と開き直って釣り座に戻った。しかし、この日の地合は、そんなに甘いものではなかったのである。

今回のバリバス予選では、「全くお話にならない」というレベルから一歩前進し、「ギリギリ」だの「精神戦」だのと勘違いできる結果に満足している僕であるが、G杯予選では前日の晩からの水分コントロールも考えておかなければならないと反省。いや、思い出してみると以前の僕達の間では、そんなことは常識だった。先月号の大竹君のセリフじゃないけれど、僕にとってへら釣りはすでに「レジャー」になりつつあるのかもしれない。もちろんストレスもばっちり溜まる、まだまだ苦しいレジャーだが。

余波。

先月号での大竹君の毒舌ぶりにはかなりの反響があったらしく、発売直後の編集部の電話は鳴りっぱなしだったらしいんです。

「岡田さんのファンとして大竹のヤローは許せねぇ！」

「二度とあんな乱暴な口の聞き方をする奴を出すな！」

怒った読者の意見は概ねこの二つに分類されるものだったそうですが、冷静になって下さい。

まず、後者から考えてみましょう。大竹君は九州へ旅立ちました。おそらく彼は釣りをやめます。ラストで僕に高価な竿掛けをくれちゃったんですよ？　もちろんまだ何セットか持っているでしょうけど…。だから、彼は心配しなくても二度と出ません（たぶん）。

次に、「岡田君をアホよばわり事件」についてですが、これはむしろ里ちんの大英断を評価して欲しいと思うくらいです。「自分の雑誌の看板スターをけなす発言」を掲載する勇気というか、ニュートラルな感覚。これは素晴らしく価値のあることなんじゃないかと僕は感じますし、そういう会話が成り立つ仲の良い雰囲気というものを前面に押し出そうとした里ちんの力作と思うんですが…。

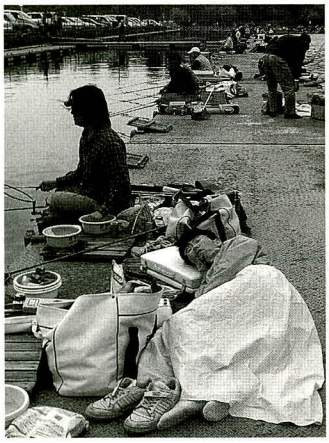
僕は先月号は直接には書いていませんが、ネタづくりには参加しています。大竹君のセリフも、実際はあそこまで毒づいていなかったんですが、悪ノリして脚色を加えた責任は僕にもありますので、里ちんと大竹君だけを責めないでいただきたいと思います。

でも、ここからが大切。鳴り止まなかった電話の大半は、実は大竹君を肯定的に捉える読者からのものだったそうです。

「全くそのとおりだ！」

「感動した！」

大竹君はたくさん敵も作りますが、同時に多くの味方も作ります。どんなに敵を作ろうとも、白黒ハッキリさせないと気が済まない不器用な生き方を、最後にまた見せつけてくれた大竹君でした。



バリバス一回戦終了後、釣りをする里の横で、爆睡する江成。そしてこの後、事件は起きた…

いざ、がま！（クラッ）

バリバス一回戦終了後、二回戦の見学もせず、かといってフリー客としての釣りもほとんどせずに、里ちんの横で寝ていた僕。一度釣り場へ出向いたら、誰よりもギリギリまで釣りをする僕を知っている里ちんは、きっと心配していたに違いない。「江成のやつ、相当へこんでるな…」とか。ゴメン、一睡もせずに参加した僕は、猛烈な睡魔に襲われていただけなのだ。納竿間際の突然のスコール。大急ぎで片付けた僕は、どさくさに紛れて里ちんの竿ケースからがまかつの竿を2本抜いた。珍しく釣りの後のファミレスもなかったので、事情を説明する間がなかった。後で驚いただろうなぁ…。

手持ちのがまかつの竿と合わせ、対G杯用の竿は用意出来た。問題はまだ申し込みしていないことだった。G杯は基本的に「愛用者大会」というスタンスなので、取り扱い店舗が受け付け窓口になるのだが、最寄りの取り扱い店となると渋谷のサンスイさんくらいしか思い付かない。しかし渋谷まで行く時間は作れそうにないし…。無理を承知でさっそく電話。

「G杯の申し込みをしたいんだけど、ちょっと時間がなくって…。お金は早急に振り込みますんで、手続きお願いできませんか？」

「了解！　参加費はいつでもいいですよ。里ちゃんに渡しといてくれてもいいですから」

と、サンスイ武重氏は快諾してくれた。感謝である。

と、そもそも何故そんなギリギリでの申し込みになったのかと言えば、バリバスの全国大会とG杯の予選の日程がカブっていたからだ。里ちんは呆れていたが、出る以上は全国大会に出場出来る可能性がないわけではない。バリバスの予選を終えてからのG杯申し込みは、僕にとってしごく当然の流れだった。

20日の晩は、さすがに疲れ切っていた。翌日がG杯でなかったら、正直、釣りはキャンセルしたいくらいだった。週末、そして5・10（ごとう）日。運悪く全てが重なってしまったこの日は、上司の特別な配慮も虚しかった。さらに年中無休の我が社にとっては、週末もへったくれもない。たまたま僕は休むが、翌日に僕の仕事を引き継ぐ奴が必ずいるのである。翌日も自分が出勤ならば、段取りを疎かにしたところで自分が苦しむだけだし、うまいことやればなんとか回せる自信もある。が、翌日の僕はG杯。段取りを蹴飛ばすわけにはいかなかった。

朝、ハンドルを握りながら、何度も居眠りしそうになる。なんて苦しいレジャーなんだろう…。

『バッカじゃねーの？』

大竹君ならきっとこう言うだろう。何故そこまでして釣りに行くのか。何故トーナメントにこだわるのか。止めてしまえば楽になれるのに…。僕は寝ぼけた頭で何度も何度も自問自答しながら、99パーセント疲れしか残らないと分かり切っている1日を迎えに、車を走らせた。

幸手の駐車場。仕掛けを作りながら僕は、ギンギンに興奮してくるのを自覚。なんだ、やっぱり「好き」なんだ。好きなら疲れても文句は言えない。これが「答え」だった。一人納得し、ニヤニヤしながら仕掛け作りを急いでいると、僕を見つけた仲間達が次々に声をかけてくれる。すごく嬉しい。なんだ、これも「答え」だ。受け付けが開始されてもまだ準備が終わらず焦る僕に、ずっと付き添っていただいた「ガチンコ」平山氏の気遣いは、特に嬉しかった。

ひげダンス。

G杯予選は、一回戦と二回戦の総重量勝負。釣り座が変わるだけのいわゆる例会方式で、1日競技に参加できるのが嬉しい。

僕の一回戦は、バリバスと同じ釣り（ウドンセット）を通し、そこそこにまとめることが出来た（つもり）。

二回戦も同じ釣りを通すのが筋だが、活性の高まりにヒゲセットへ転向することにした。「初志貫徹」は、バリバスで一度出来たのでもう満足だったし、ヒゲもセットであることに変わりはない。「セット釣りから逃げない」という、今年のトーナメントにおける僕のメインテーマからはいささかもブレることはない。…と、完全に自己納得し、かつ後ろめたさも全くなかった僕は、とんでもなくお調子者である。

今回はまわりの釣れっぷりに何のためらいもなくヒゲにスゥイッチしたが、実は今までヒゲからは逃げていた。

セットの記事は何度も書いてきたが、オカメはあってもヒゲの話が全くなかったことにお気付きの読者もいたと思う。ウドンよりカラが少ない「はず」のヒゲに激カラをもらうケースが増え、この釣りからフェードアウトする寸前にはアレルギーを持ってしまっていたことを告白しておく。

僕の中のヒゲセットのイメージは、ダンゴを食いたくてすぐそばまでは来るが、アタリを出すまでには至らないへらを、短段差でダンゴのすぐそばに置いたヒゲで釣ってしまおうというものだった。

何を当たり前のことを書いているんだと思われるかも知れない。現在のヒゲセットだって同じじゃないか、と。ヒゲに限らずどんな

「浅ダナスタイル・ワイドプラス」

杉山作

発表以来、絶大な支持を得ている「浅ダナスタイル・ワイド」のビッグサイズ版、登場。
バランスはそのままに、サイズ、ボディ、トップにボリュームをプラス！

取り扱い店〈五十音順〉
埼玉・越谷 かわせみ（☎048・969・5067）　茨城・下妻 こやの釣具（☎0296・44・1619）　東京・渋谷 サンスイ川釣り館（☎03・3499・5025）
埼玉・入間 へらの三水（☎042・964・2093）　栃木・益子 フィッシングハウスほその（☎0285・72・2215）　神奈川・川崎 鮒仙人（☎044・287・7470）
東京・吉祥寺 丸勝（☎0422・22・8923）　東京・青梅 吉川釣具店（☎0428・22・2467）

クワセを用いたセット釣り全般がそういうものだ、とも。僕もつい三日前まではそうだった。

トーナメントにおける定番としてリバイバルしたばかりの頃のヒゲセットは、今より明らかに締まったバラケでも釣れた。

ダンゴにアタリ切れないのだから、いくら締まったバラケであったとしても、ダンゴへのカラツンはさほど気にならない。アタればほぼ全て下バリのヒゲをくわえて上がってきた。固形のクワセより遥かに高いヒット率の快感。しかし今これをやってしまうと、アタリが遠くなるか、やっとアタってもカラツンでしかないケースが多いと思う。そしておそらくそのカラツンは、寄った中で数少ない貴重な活性の高いへらの、ダンゴへの精一杯のぶつかりカラツンではないかと僕は思う。つまり、「ヒゲに反応していない」という分析だ。アタリが遠くなるケースは、「寄りが保てない」という分析。ここで「ヒゲセットはない」と断定したケースは多々あるが、後から来たヒゲが得意な人に、あっさりイレパクにされたこともあった。わけが分からなかったが、ロクに追求もしないまま、僕はちょうどその頃へら釣りから遠ざかっていった。

リバイバル当初、「何故ヒゲはヒット率が高いのか」を僕は真剣に考えた。

軽さ、口当たり、膨らみ、目新しさ…など。現在ヒゲセットが得意な人からは、鼻で笑われそうな理由を一生懸命並べ立てた。もし、ここで「何で笑われるの?」と感じる読者がいるとしたら、ちょっとマズいかもしれない。きっと、僕と全く同じ勘違いをしている。

連載開始早々に、岡田君をゲストに呼んだセット編。その中で僕は、岡田君に「ヒゲのセットで上バリより大きな下バリを組み合わせて、張りを確保するなんてのは今はやる?」というような質問をしていたと思う（子供にどこかに仕舞われてしまって確認出来ず）。これは「落ち込み」というヒットゾーンの中で、いかにしてアタリをウキに伝えるか、という話の中でのセリフだったと思うが、ここに、つい三日前まで続いた僕の勘違いの全てが集約されていると言っていい。

「ダンゴを食い切れないへらに、下バリを食べていただく」にはどうすればいいのか。

バラケの中のクワセを、「粒子と間違えて食う」のを待っていたら日が暮れてしまうから、過去に度々用いてきた円の模式図をベースとして考え、距離とバラケの拡散範囲をコントロールする。時にはノーバラケのバラケを組み合わせ、食べやすいお手頃な粒子としてクワセをアピールする。これがセット釣りのキモ。ただ、へらは目が悪いというし、暗い水中ではクワセを視認出来ていない可能性があるから、「積極的に間違わせる」ための微調整と言い換えてもいい。

…言い換えてもいいけど、僕はあまり好きではなかった。ダンゴより食べやすい「疑似・芯」を、「選んで食べてもらいたい」という気持ちがやはり強かったのである。そのため、距離と拡散範囲を合わせたあとで、クワセの大きさ、比重、硬軟（口当たり）も微調整したり、種類を変えてみたりした（落ち込みというタイミングは、当時の僕はあまり重視していなかったため、微調整後に生じる落下速度の変化はほとんど無視）。その結果、へらの反応に明らかに変化があり、「へらはクワセを選別している」すなわち「間違って食うなどという消極的なものではないが、かといって積極的な、などという形容詞を付けたところで納得出来ん」という思いを強くしていった。

そんな僕にとっては、ヒゲも固形と同じである。揉まれてアタリが出ないと見るや、躊躇なくハリをサイズアップ。ヒゲのセールスポイントである軽さはあっさり殺した。「間違って食わせるため」に「漂わせる」などという発想は全くなかった。軽さを殺してもまだまだメリットは残っていたからだ。

ふくらみがマイナスになると考えたこともある。疑似・芯なら小さくていい。そんな時は、黙って「即（今はなきふまつげんのインスタントウドン）」でヒゲをシメた。これでかなり固形チックになる。今となっては、僕はやる気も起きない手だが、リバイバル当初はこんなことをしてもよく釣れた。どんなに固形に近付けても素材自体の軽さが消えるわけではないし、ヒゲ自体にまだスレていなかったのも大きいだろう。現在でもこれで釣れるケースはあるかもしれない。が、それはヒゲセットの本流ではない。

ヒゲセットは「ヒゲに反応させる釣りではない」。「間違って食わせる釣り」だったのだ。だから、ヒゲは「置かない」。「漂わせる」ための軽さと膨らみなのだ。

G杯二回戦。一回戦の好調そのままに、ヒゲセットでスタートダッシュを決めた裏の釣り人とは対照的に、動きが乏しい僕のウキ。残念ながら、場所の差とは片付けられない理由があった。一回戦と二回戦目の釣り座は、真裏を向いて入れ替わるだけだったからだ。

しばらく裏のウキの動きを見る。けっこう深く入れている。そしてフワフワとサワったあと、間髪入れずに落とす。なるほど、まさにイレパクといった感じのいい動きだった。

対して動きが乏しい僕のウキ。その時、まだヒゲを固形として捉えていた僕は、かなり締まった方向に進んでいたため、ナジミは裏と同じくらい深かった。しかし、アタらないどころか、へらっ気が乏しい。寄りが足りないのかと感じ、ナジミは出るものの、かなり上からも開くボソ方向へ転換。すると、ナジミ際にへらの反応が現れ始めたが、ヒゲには全く「反応がない」。

拡散範囲が広まったことで、距離が伸びたのか? ハリスを伸ばすか…そんなことを思いながら、また裏を見る。超短バリスセッティングだ。さらに、バラケはけっこうボソのようだ。これは考えどころだ。ほとんど同じことをやっているのに雲泥の差。僕は何かが間違っている。

「下ハリスが張ってないから、オレのはアタリが出ないのかな…?」

しかし、下バリのサイズアップでも反応がないことを確認し、ようやく気付いた。ヒゲのまわりにへらはいない。ヒゲに反応させるのではないのだ。

「へらがいるのはバラケのまわり。バラケに反応させて、間違って食わすんだ。バラケと絡んで初めてヒゲは踊るんだから、デカバリはナンセンスだ。バラケはどこだ? タナより遥かに上か…。振り切るか? ウキを換えてる時間はないぞ…。ボソのままタナを凝縮する方法があればなぁ…? あった! 魔法の粉を振りかけろ〜!!」

冗談抜きで、ここから怒濤のイレパク。

一瞬予選通過を思いっきり意識し、手が震えた。しかしそこは僕。長くは続かない。すでにいじり倒した後での魔法の粉投入とあって、エサが長くは続かなかったのだ。あわてエサを作り替えたが、持っていきたいラインを行き過ぎてしまう…。このあたり、月イチの悲しいところだが、ぶっつけ本番でヒゲセットを敢行したことを思えば上出来である。しかも、今までの謎が全て解けてしまって大収穫。

本番で勉強してもしょうがない、というのはナシ。

「もう、勘違いでもなんでもいい。完全に自信付けちゃったぞ〜! 来月はヒゲセットのおさらい!」

時間切れ。

ここまで勢いで書いてみたが、固形セットであってもバラケに反応させることには違いないわけなので、重複するが、もう一度整理してみる（読み返して書き直す時間がありましょーん）。

僕が言う固形セットとは、勝手な思い込みかもしれないが、疑似・芯としてへらが受け止めることが出来るクワセ（粒子）を用いたセットということになる。その点、ヒゲは疑似・芯（粒子）ではなく、ただのカスミ。一生懸命食わせようと努力する対象が、クワセのヒゲではなく、バラケの粒子という点が大きく違うことになるので、粒子を殺したバラケを組み合わせるのはナンセンスということになる。ま、だいたい水中は見えないし、へらからもクワセなんて見えてないかもしれないけれども。あくまでもイメージということで…。

「ヒゲのキモ」を発見したと大騒ぎしている僕だが、おそらく多くの読者の常識だったんだろうとは思う。僕は「へら鮒」以外はほとんど読んでいないので、不勉強といえば不勉強。それに、ヒゲの記事は無意識に避けていたような気もする。笑って許していただきたい。今回思い付いた魔法の粉入りのバラケなんてのも、タナを凝縮しつつ目的の位置で開かせるという意味では、固形セットにも当然使える手だし、みんなすでに知っていたことなんだろう。そういえば以前、小池インストラクターがそんなことを言っていた記事があったような気もする…。

思い出をひとつ。

ヒゲセットを全く固形セットと同じだと捉えていた当時には、合わせる粒子もきちんと考えていた。クワセと同調する粒子、それはコブ入りの「秘作（ふまつげんのトロコン調整エサ）」しかないでしょ～。大真面目だった。笑っていただきたい。

とりあえず本当に、次回もヒゲを練習する必要はありそうだ。皆さんがとっくに知っているようなことでも、僕にはまだまだ知らないことがたくさんあるに違いない。そういったものを掘り起こせれば、と思っている。

（里ちん註：アニキの記事を読んだ後、今月号の岡田清氏の記事も併せて読んでみてください。ヒゲの達人になれるかもよ!?）

アニキ、今回も原稿チェックかなり痺れましたが…、よくぞ書き上げて下さいましたっ！（文字だらけやんけ！）

ヒゲセットに関する記述は、はっきり言って驚きです。釣りやってないくせに、ここまで核心を捉えてしまうとは…。

次回はご希望通り、ヒゲセットの練習でオッケーです。椎の木湖あたりで実証してもらいまっせ～！

ところで、僕ちゃんの大事な竿を勝手に持っていった事に関しては、大目に見てあげましょう。…ただ、返し方がマズイっスよ。バリバス全国大会の取材（富里乃堰）で疲れ切った里を流山インターまで呼び付け、里が着いたら「まだ幸手の近くのコンビニに車停めて寝てる。もう少し寝かせて♡」だとぉ!?一旦家に帰って、夜、アニキに呼び出されて再び流山インター近くのファミレスまで出向いたのだが、帰ってきたら嫁に「二日間も家を空けて（バリバス取材は二日間で、泊まりだった）やっと帰ってきたと思ったら、また出ていくんだ。私と過ごす時間は無くても江成さんと会う時間はあるんだね…」と激怒し、しばらく口を聞いてくれなかったんだから！全く勘弁してくださいよ…。

by里ちん

「いやぁ、ゴメンゴメン♡」
「返却」あらため「奪還」…いや、「逮捕」！
アニキのせいで、ウチの夫婦関係はボロボロです…（涙）。　by里ちん

釣番付

料金表

50名まで	55,000円
51名～75名	60,000円
76名～100名	65,000円
101名～125名	70,000円
126名～150名	75,000円
151名～175名	80,000円
176名～200名	85,000円

・仕上がりは黒一色です
・人数は成績表部分のみ数えます

書体見本

1.ぐりへら鮒会
2.ぐりへら鮒会
3.ぐりへら鮒会

・番付をインターネットで公開できます（無料）

お問い合わせご注文はお早めに！

取扱店：柴　舟　03-3613-2727

ウキや小物の銘入れに

転写シール

初回注文黒一色、300銘で8,500円～
２回目以降同じものをご注文の場合は3,500円～

・8書体、8色を御用意しています
・角印も作れます

取扱店：
柴舟（東京都江戸川区）
03-3613-2727
佐伯釣具店（神奈川県川崎市）
044-911-3722
SANSUI川づり館（東京都渋谷区）
03-3499-5025
フィッシング中原（神奈川県川崎市）
044-711-8266
鮒仙人（神奈川県川崎市）
044-287-7470

お問い合わせ、ご注文は各取扱店
または下記HPまでどうぞ

office27
あとりえぐり

http://www.office27.com
E-mail:info@office27.com

へら鮒釣りの楽しさを追究し続ける…

No.487 July 2006

へら鮒7

Monthly fishing magazine herabuna

風光り、水弾ける

野の季節。

特集

純野釣り浪漫

独占スクープ！
ダム王・松村則朗の亀山湖50上狩り！

石井旭舟、田瀬湖で47cm…！

稲毛利夫が、純野へらを釣らせます！

超強力連載陣による最先端釣技も満載！

小池忠教両ダンゴの基本in羽生吉沼
中澤 岳底釣り両ダンゴin加須吉沼
杉山達也メーター両ダンゴ&ヒゲトロin府中H.C
岡田 清メーター両トロロ&ヒゲトロin椎の木湖
棚網 久深宙両ダンゴin清遊湖
小林恭之&田辺哲男ウドンセット&ペレ宙in谷和原大沼
石川裕治深宙両ダンゴin三島湖

昭和41年5月4日第3種郵便物認可
第41巻第7号（毎月1回1日発行）
平成18年7月1日発行

へら鮒 2006 7

純野釣り浪漫

定価 一〇〇〇円 本体九五二円

㈱へら鮒社

シーズンイン!!

いよいよ、両ダンゴ本番。だから「ペレ道」の出番。

ペレット系独自の圧倒的な集魚力、まとまりのよさ、重さを装備。へらが食いやすい状態で、しっかりとハリに残ります。魚をウワズらせず、タナをつくりながら強力に寄せ、いいアタリで釣れるうえ、良型が揃う可能性も高まります。ペレット系の弱点だった、経時変化によるネバリを抑えた、作りやすく扱いやすい、宙釣り用ダンゴのベースエサ。ブレンド性に優れ、お好みの麩エサを追い足しできます。

●ペレ道（べれどう） 600g （スライダーチャック袋）

マルキュー株式会社
〒363-8509 埼玉県桶川市赤堀2-4

お問い合わせ 本社・桶川工場:048-728-0909 大阪支店:072-824-0909 四国営業所:0877-44-0909 九州営業所:0942-82-0909
ホームページアドレス http://www.marukyu.com/

釣り場でエサに困ったら iモード・ホームページ http://www.marukyu.com/i

マルキューへら鮒メールマガジン、大好評配信中!!
マルキューでは、耳寄り情報満載のメールマガジンを無料配信します。配信登録の方法など、詳細についてはマルキューホームページをご覧ください。→ http://www.marukyu.com/

雑誌 07907−7
4910079070766
00952